

○センリゴマを採る (山崎 敬) Takasi YAMAZAKI: Meeting with *Rehmannia japonica* Makino

センリゴマ、一名ハナジオウは江戸時代の園芸植物で、1784 年 Thunberg によってすでにヨーロッパにも紹介されている。飯沼慾齋によればジオウと同様に薬用にもしたらしい。ジオウに似たきれいな植物で、江戸時代には普通にあったもののようである。東京では明治のすえまで小石川植物園に栽培されていた。しかし松田定久氏が大正7年ジオウ類の解説をしたさい、センリゴマはまれな植物であるといっていて、大正中期にはすでに外来の園芸植物におされて、栽培されなくなっていたようである。その後この植物はまったくすがたを消してしまって、昭和7年牧野富太郎博士がセンリゴマの学名をあらためたさいも生品のことはふれていない。ところが昭和12年小泉源一博士は岐阜県山県郡北山村神崎(現在美山村)で栽培されているのを発見した。都会ではわすれられてしまっても、地方では観賞されていたのである。戦争がはげしくなるにつれ、多くの園芸植物がじゃまものあつかいされたので、センリゴマの消息もふたたび不明になってしまったが、どこかにいきのこっているだろうとかがえていた。たまたま昭和35年5月に小沢元之助、榎本一郎、田中康義氏等が静岡県磐田郡水窪町山住へ行ったら、ジオウに似たうつくしい植物が農家の庭にうえてあったと知らせて下さった。さっそくじもとの耳塚治作氏から実物をおくっていただいたところセンリゴマであることを確認することができた。水窪近辺の家ではあっちこちに栽培され、石垣のすきまなどをこのんで地下茎をのばして繁殖し、うつくしい花をさかせている。園芸品としても立派なもので、もっとひろく栽培されてもよい植物である。

センリゴマはジオウに似ているが、花茎は上部まで葉がつき、葉は広卵形で先のややとがった鋸歯をもち、花は大きく長さ5~6cmある。ジオウが葉は花茎の基部にあつまり、葉は長楕円形または楕円形で先のぶい波状の鋸歯をもち、花は長さ3~4cmであるのとことなり、あきらかにべつの種類である。

ジオウ属は日本には野生せず、すべて中国原産で7種類ほど知られている。日本で栽培されているのはジオウ、センリゴマのほか *R. angulata* がハナジオウとよんでまれにみられる。ジオウは中国北部、満州、蒙古に野生し、*R. angulata* は湖北省、貴州省に野生しているが、センリゴマだけは中国から渡来したものと思像されるが、野生地は知られていない。日本に栽培されているだけであり、それだけに絶滅させたくない貴重な植物である。

センリゴマにもっともちかい野生種は *R. Chingii* Li であって、浙江省から報告されている。葉のつきかた、花の形や大きさなどよく似ているが、*R. Chingii* は茎は無毛または毛を散生するというが、センリゴマはジオウほどでないがかなり密に長軟毛でおおわれているし、*R. Chingii* の葉身は楕円形で柄の方へ長くながれ、鋸歯は鈍頭であるが、センリゴマは広卵形で鋸歯はやや鋭頭であるなど一致しない。したがってセン

リゴマの自生地はまだ不明である。

最近原寛博士は岐阜県美山村伊住戸（イオウド）でセンリゴマが健在であることをみてこられた。岐阜県から静岡県奥地にはひろく栽培されているのでないかとおもわれる。学名は次のようである。

Rehmannia japonica (Thunberg) Makino in Journ. Jap. Bot. **8**: 24 (1932) pro syn.—*Melittis melissophyllum* (non. L.) Thunberg, Fl. Jap. 248 (1784)—*Melittis japonica* Thunberg in Trans. Linn. Soc. **2**: 338 (1794), Icon. Pl. Jap. **3**, tab. 8 (1801)—*Rehmannia glutinosa* Libosch. var., Makino in Iinuma Zōtei Sōmokudzushu **3**: 861, tab. 703 (1912)—*Rehmannia glutinosa* Libosch. var. *makinoi* Matsuda in Tokyo Bot. Mag. **32**: (140) (1918)—*Rehmannia glutinosa* Libosch. var. *japonica* Makino l.c. 24 (1932). (東大理学部)



Fig. 1. *Rehmannia japonica*. 水窪町向市場石本氏庭のセンリゴマ。

オイチリンソウは三葉輪生ではない（前川文夫） Fumio MAEKAWA: Pseudo-verticillate leaves in *Anemone nikoensis*

イチリンソウの花茎には3葉の輪生がみられるがこれは偽似的なものであることを最近知った。即ち下方に1葉（この腋に腋芽がつき1~2葉をつける）と上方に対生した2葉（この間に1花が頂生する）とが節間短縮し、また相互関連のためにはほぼ等角度に3葉をつけた見掛け上の輪生である。この構成は他の *Anemone* にも通じるかも知れない。(東大理学部)